

特定非営利活動（NPO）法人

ワークスたんぽぽを支える会 会報

チャレンジャーズ Vol. 18

2012・8・28

地域の中での存在感を少しずつ大きくしています

理事長 清宮 侏子



日頃、皆様には何かとご配慮を頂き、心から感謝申し上げます。

昨年度は、3月に起きた東日本大震災の影響により、いろいろな計画に、支障をきたしましたが皆で何とかクリアすることができました。新設の大沼作業所は開所が10日遅れましたが少しずつ個数を増やし、当初の60食をクリアすることができました。被災地支援事業への協力、復興下請け作業の増加、行事や集会のお弁当の注文など、ワークスのお弁当に対する信用も定着しつつあると思いき嬉しいです。4月に実施予定であった 北欧福祉施設視察研修は2011.12.6～11 実施、たまたまノーベル賞受賞会場が設営を始めたところに出会い、その会場を見学できたという《普通でははいることもできないノーベル賞をもらえば別ですが》ところまで見学できたというおまけつきでした。主宰のNPO法人日立太陽の家と共催の形で実施しましたが、今後の交流の中でお互いによい仲間になってくれるといいと思っています。個人的には、両方の施設の設立以来かかわっています。ワークスたんぽぽの生みの親でもある池の川幼稚園の大楽英子前理事長が9月15日逝去され、10月15日に池の川幼稚園で、木村 統さんの司会によりお別れ会を開きました。心からご冥福をお祈り申し上げます。このことについては近いうちに書いておきたいと思っています。ワークスたんぽぽの各作業所では、お弁当あり、工場下請け作業あり、オリジナル作品の製作あり、多岐にわたっていろいろな分野を開拓しているのが現状ですが、日立製作所の発祥の地である日立市に、知的障害者の雇用を考慮した特例子会社の設立を考えていただきたいとお話に行きました。先進地の見学に、育成会の稲川会長、森田、木村、清宮で参加した様子などもお話ししました。勤労部長さんと課長さんをおたずねしてです。地震の跡もあちこちに残っている中でした。いろいろな法律がどんどん変わります。これがだめならこれで、と転換の良いことは、よい一面もありますが地方が複雑な人間関係の中で、少しでも良くなろうと努力をしていることもよく勘案して物事を進めてほしいと思います。半世紀というときの流れの中で、それでも皆さんとここまで来たことは感謝です。爽やかに吹く風の中に、目に見えない風の中にいろいろな先人の温かい励ましを感じながら、へこたれないであるいていきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

風（クリスティナ、ロセッティ）

訳詞 西條 八十

誰が風をみたでしょう／僕もあなたも見やしない／けれど木の葉を震わせて／風は通り抜けていく（2ばん 略） 「赤い鳥」大正10年6月号より

北欧福祉施設視察ツアー報告

共催 NPO法人 日立太陽の家
NPO法人 ワークスたんぽぽを支える会

～ 2011年12月6日から11日 ～

ストックホルム(スウェーデン) コペンハーゲン(デンマーク)

デイアクティビティセンター（ストックホルム市）

利用者数：33名、利用者年齢：22～70歳、スタッフ：18名、月～金8：00～16：00
通常の仕事に就くことが出来ない知的障害者の為のセンター。重度の方でも通う権利がある。ここでは、利用者の感性や創造力を刺激するような様々な種類の活動を行っている。利用者一人一人が自分のペースで力を伸ばして行けるようにサポートすることを目的とする。工芸グループ、サービスグループ、散歩グループ、感覚刺激グループ、脳損傷の人たちグループの5グループがあり、サービスグループでは、隣接する地方自治体オフィスの紙ごみを集めリサイクル手帳を作る、フルーツバスケットを運ぶなどの仕事もする。利用者には作業報奨金が支払われ、利用者だけの話し合い(労働組合)が週1回行われる。

パーソナルアシスタント（スウェーデン）

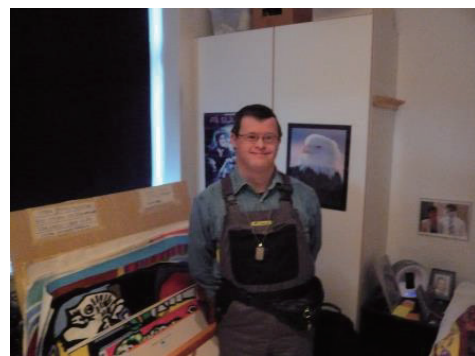
障害者が自分で雇用する専属介護者で、生活、趣味、仕事など必要に応じて、自分の望む援助と介護者を自分で選ぶことが出来る。その関係は、共に仕事をするパートナーであり、人間的には対等、仕事としては雇用主と労働者という関係である。

グループホーム（デンマーク）

11戸のアパート（玄関、寝室、バスルーム、キッチン兼居間）で、共同居間（キッチン）、寛ぎルーム、大きな庭園、共同洗濯場が共通スペースである。男性7名、女性4名が住んでいる。ここから、職場、学校、施設に通っている。仕事は2～4時間、その他はほとんど家にいる。指導員は、1～2名7：00～21：00の間いる。入居者は半数の方は夕食を一緒に作りとる。各戸はそれぞれ独立した家であり、指導員でも入居者の許可が無いと入れない。家賃、食費、小遣いなど必要経費は市から支給される。



デンマークのグループホーム



絵を描く仕事をしている利用者

北欧視察を終えて

ワークスたんぽぽ統括施設長 木村 統

「北欧は素晴らしい」といろいろな方より伺ってはおりましたが、やはり直接お話を伺い、施設の状況も見せていただくと、根本的な考え方が違うのだということを実感させられたように思います。日本の支援費制度や介護保険制度も、「利用者本人の意思を尊重し、自分で選べるようにする。」という理念の基で始まったと私は理解していたので、考え方は一緒である思っていました。しかし、日本では、「面倒を見てやる。」「お世話になる。」という意識が強いのか？支えてもらう、支え合うという考え方において、北欧とはだいぶ違うように感じました。北欧では、「出来ることは自分でやる」「出来ないことは支えてもらう、支え合う。」ということが当たり前であり、誰もが持っている人間としての当然の権利であると考えているようでした。つまり、権利と義務がセットであり、自立は、障がい者もそうでない人も、誰もがやらなければならない当然のことであり、その為には、誰もがその人なりの努力をするということのようです。そしてそれを支える為には、一人一人の能力が違うのだから、かかるお金も当然違うと考えているようで、「人より少ないと損をする」「一律の金額が平等」と考えがちな日本とは、ずいぶん違うように感じました。誰かの為ではなく、つまりは自分たちの為でもあるという考えが浸透しているようでした。日本の制度は「仏作って魂入れず」であり、これが北欧のノーマライゼーションという事なのだ実感しました。

今回、「太陽の家」の小又園長先生と「重症心身障害児(者)を守る会」の佐藤会長さんの御好意により、我々「ワークスたんぽぽ」のスタッフも北欧に同行させていただくことが出来たこと、心より感謝申し上げます。この度の研修で、これまで、池の川幼稚園やワークスたんぽぽで実践してきたことは、大楽先生や清宮さんがこのような考え方を他に先駆けて実践してこられた結果であったということ、そして、小又園長先生やスタッフの皆さんとのお話で、太陽の家も同じ考えで実践してこられていたということが改めて確認でき、本当に良かったと感じています。今後も現場から、税制や行政を変えてゆけるよう、太陽の家の皆さんとも協力して実践を積み重ねてゆこうと考えております。

これからも宜しくお願いいたします。



図書の管理をしている利用者
(写真右) (スウェーデン)



色分けや絵の表示で分かりやすい
スウェーデンの施設

ワークスたんぽぽを支える会 H23 年度決算報告

去る 5 月 26 日にワークスたんぽぽ成沢において 2012 年度定時総会が開かれ、委任状 39 名、出席者 24 名にて、すべての議案が承認されました。決算書は以下のとおりです。

『2011 年度特定非営利活動に係る会計事業活動計算書』

科 目	金 額 (単位円)
1 経常収入の部 合計	89,159,164
1 会費収入	318,000
2 事業収入	
就労支援事業	23,145,837
移行・継続支援サービス事業	65,639,327
寄付金	56,000
II 経常支出の部 合計	97,884,740
就労支援事業	
利用者工賃	10,309,560
経費・材料費	12,859,669
移行・継続支援サービス事業	
人件費	58,018,679
その他の経費	13,903,622
減価償却費	2,793,210
経常収支差額	△8,725,576
III 経常外収入の部 合計	8,075,965
1 受取利息配当金収入	13,871
2 経理区分間繰入金収入	8,062,094
IV 経常外支出の部 合計	8,062,094
1 経理区分間繰入金支出	8,062,094
経常外収支差額	13,871
V 特別収支収入の部 合計	11,379,089
施設整備補助金収入	1,449,000
固定資産移管益	9,930,089
VI 特別収支支出の部 合計	9,983,639
固定資産移管損・処分損	9,983,639
特別収支差額	1,395,450
当期活動収支差額	△7,316,255
前期繰越収支差額	29,944,588
当期末繰越収支差額	22,628,333
その他積立金取崩額	13,000,000
その他積立金積立額	△3,988
積立金積立額収支差額	12,996,012
次期繰越活動収支差額	35,624,345

発行事務局 特定非営利活動法人 ワークスたんぽぽを支える会

〒316-0032 日立市西成沢町 1-6-1 電話/FAX 0294-26-0086